

■ 教育研究上の理念及び養成人材像・教育目標・3つのポリシー・学修成果
 ■ 看護学科

<p>教育研究上の理念及び養成人材像</p>	<p>看護学科では、学生が本来持っている個人の資質を、心理・身体・社会面のバランスを取りながら成長させ、高い倫理観を養い、人間愛を育て、看護者としての知識、技術、判断力を高めると共に、現実を見据えて看護の現場に適応でき、生涯にわたり学び続けて地域社会に貢献できる看護師を育成する。</p> <p>教育する看護学の内容については、人間を、環境との相互作用の中で全体的な統合した存在として捉え、健康レベルは環境との相互作用により流動的に変化することから、その人の到達しうる最良の状態を最適健康状態と捉える。すなわち、看護は人間の生活の全面に働き掛け、生活を整えて、その人の持っている自然治癒力を引き出しながら、その人にとっての最適健康状態を生み出すように援助する働きであると捉え、それを教育研究上の理念の中核とする。</p>
<p>教育目標</p>	<p>看護学科では、看護を、人間の自然治癒力を引き出し、生きる力と希望を持ち、生涯にわたり尊厳を持って輝く人生を送れるように支援することと考える。このような看護を実践する人材を育成するために教育目標を置き、教育課程に反映させていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間愛の精神に基づき、さまざまな文化的・社会的背景を持つ人々を理解・共感し、誠実な心で接することのできる態度を養う。 2. 生命の尊厳を理解し、倫理的な看護実践ができる基本的な能力を養う。 3. 疾病の予防や健康の維持増進、また疾病の回復および終末期における対象のニーズを正しく捉え、看護問題を適切に解決できる基本的な能力を養う。 4. 社会や地域特性に応じた看護の機能と役割を理解し、保健・医療・福祉チームの中で果たす役割の責任を担う姿勢を養う。 5. 専門職業人として看護の質向上をめざして研鑽し続ける基本的な能力を養う。
<p>ディプロマ・ポリシー</p>	<p>看護学科に3年以上在学し、【基礎力】【実践力】【人間関係力】【生涯学習力】【地域理解力】の5つの力で表わされた本学科が定める学修成果を身につけ、所定の卒業要件単位数を満たした者に、「短期大学士（看護学）」の学位を授与する。</p>

学修成果とは学生が獲得すべき知識・スキル・態度などであり、本学科では以下の通りとする。

1. 【基礎力】 一般教養並びに各専門分野の基礎的能力

- ① 専門教育の導入・基礎として確かな基礎学力を育て、統合できる能力を身につける。
- ② 教養の涵養によって、異なる文化や社会を尊重していく態度を身につける。
- ③ 人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと回復の促進について理解し、看護実践の基盤となる能力を身につける。
- ④ 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断や倫理的判断・行動に必要な基礎的能力を身につける。
- ⑤ 看護を取り巻く社会の動向や特性を知り、看護職の役割と責任について理解する能力を身につける。

2. 【実践力】 各分野の実際の場面に対応できる力

- ① 科学的根拠に基づいた臨床判断能力を身につける。
- ② 多様な場、健康段階、発達段階及び倫理を踏まえて対象のニーズをとらえ、看護を実践する能力を身につける。
- ③ 安全なケア環境を提供する能力を身につける。
- ④ 人々の尊厳と権利を擁護し意思決定を支援する能力を身につける。

3. 【人間関係力】 専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力

- ① 援助関係を形成する能力（個人・家族・集団・地域との援助関係・信頼関係、協働関係）を身につける。
- ② 保健・医療・福祉チームにおいて多職種との連携・協働する能力を身につける。
- ③ ケアへ参画する能力を身につける。

4. 【生涯学習力】 生涯にわたって学び、成長できる力

- ① 看護の専門職として価値と専門性を発展させる能力を養う。
- ② 生涯にわたり研鑽し続ける能力を養う。

5. 【地域理解力】 地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力

- ① 人々の暮らしに影響する地域の特性に関連する文化や社会的背景を理解する能力を養う。
- ② 人々の暮らしを取り巻く環境と健康の関連について、現状と課題を理解する能力を養う。
- ③ 災害看護を理解する能力を養う。
- ④ 地域包括ケアシステムにおける看護活動の在り方について理解する能力を養う。

カリキュラム・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教養の涵養によって、異なる文化や社会を理解し尊重していく態度を養い、実社会と結びつく確かな基礎学力を育成し、看護学の専門教育に繋がる教養教育科目を配置する。 2. 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断を強化するため、人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと回復の促進を、看護学の観点から理解できるように配置する。 3. 地域における多様な場で生活する対象者及び家族に看護を提供するため、人間関係を形成するコミュニケーション能力を育成し、専門職として必要とされる看護実践能力を獲得することを目指して段階的な教育課程を編成する。 4. 保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割及び他職種の役割を理解し、多職種と連携・協働しながらシームレスなケアを提供するための基礎的能力を養うことができるよう編成する。 5. 主体的な学修を重視し、3年間を通し専門職業人として看護の質向上をめざして研鑽し続ける能力を養うことができるよう編成する。
アドミッション・ポリシー	<p>看護学科では、高い倫理観を養い、人間愛を育み、看護者としての知識、技能、判断力を高めると共に、生涯にわたり学び続けて地域社会に貢献できる看護師の養成を目標としています。</p> <p>この目標を達成するために、以下のような能力と資質を持った学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護に必要な専門知識を身につける上で必要とされる国語・数学・理科・英語の基礎的な知識、基本的な学修習慣が身についている。 2. 生涯を通じて学習を積むことが出来る志を持ち、主体的に知識や技術を修得しようという意欲がある。 3. コミュニケーション能力と協調性があり、周囲と良好な人間関係を築くことができる。 4. 看護師として人々の命を大切にし、健康の保持・増進や地域社会に貢献しようとする強い意志を持っている。

■ ビジネスキャリア学科

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">教育研究上の理念及び養成人材像</p>	<p>職業人として、社会の発展に貢献するためには、自らのキャリアについて深く考える機会を持ち、自己や社会に適合する形へと、将来のキャリアをデザインする過程が必要である。キャリアをデザインすることによって、各人は、どのような形で社会と関わり、影響を与えることができるか、あるいは適性と適職を見つけ出し、自己の能力と価値を、最も効果的に発揮できる状態までも見つけ出すことができる。現代の社会状況を鑑み、学生の将来のキャリア形成を促進するために、幅広い教養教育を基盤とした豊かなコミュニケーション能力と、経営学の基礎理論に裏打ちされたビジネス実務能力を涵養させる。以って、地域社会の活性化に貢献する人材、自己向上の意欲を持ち続け、広い意味でのキャリア形成に生涯努める人材の育成を図ることを、本学科の教育研究における基本的な目的とする。</p> <p>卒業後の学生の進路は、本学科の課程を修了して身につけた能力を各分野で発揮し、就業することを想定している。</p> <p>学生が進路先として希望する分野で求められる専門的知識や技術を効果的に修得できるようにするために、各種推奨履修モデルを軸とした教育課程を編成する。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">教育目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際化、情報化、価値観の多様化など、複雑化する現代社会において、あらゆる角度から物事を見つめ、適切な判断を下すことのできる幅広く豊かな教養を身につける。 2. “ことば”をきちんと読み、書き、聞くことができ、他人の考えを深く理解し尊重しながら、自分の考えを適切に表現できるコミュニケーション能力を身につける。 3. 経営学を中心とする学問の体系的理解とビジネス分野で役立つ専門実務能力を身につける。 4. 時代の変化や専門知識・技術の高度化に応じた、生涯キャリア形成を行う能力を身につける。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ディプロマ・ポリシー</p>	<p>ビジネスキャリア学科に2年以上在学し、【基礎力】【実践力】【人間関係力】【生涯学習力】【地域理解力】の5つの力で表わされた本学科が定める学修成果を身に付け、所定の卒業要件単位数を満たした者に、「短期大学士（ビジネスキャリア学）」の学位を授与する。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学修成果（到達目標）</p>	<p>学修成果とは学生が獲得すべき知識・スキル・態度などであり、本学科では以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 【基礎力】 一般教養並びに各専門分野の基礎的能力 <ol style="list-style-type: none"> ① 社会人として必要な一般教養や読解力、発信力、表現力などの基礎的な能力を身につける。 ② 基本的ビジネスマナーを理解し、現実の場面で発揮することができる。 ③ 収集した情報を状況に応じて適切に判断し、活用することができる。 2. 【実践力】 各分野の実際の場面に対応できる力 <ol style="list-style-type: none"> ① 深い知識と技能を修得し、状況の変化への対応や、総合的な判断ができる。 ② 多角的な視野から物事を考察し、本質を見極めて課題発見・解決に取り組むことができる。 3. 【人間関係力】 専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力 <ol style="list-style-type: none"> ① 積極的かつ意図的にコミュニケーションの機会を作りだし、他者の考えや立場を理解しながら自分の意見も述べることができる。 ② 豊かなコミュニケーション能力を発揮することで、良好な人間関係を築き、他者や社会への貢献と自身の成長を喜びとすることができる。 ③ 職業人として自己の能力を磨き、自分の強みを発揮し、他者に好ましい影響を与えることができる。 4. 【生涯学習力】 生涯にわたって学び、成長できる力 <ol style="list-style-type: none"> ① 生涯を通じて時代の変化に対応し、自身のキャリアを形成していくことができる。 ② 自己投資の必要性を認識し、継続的に自分を成長させることができる。 5. 【地域理解力】 地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力 <ol style="list-style-type: none"> ① 地域の歴史や現状と課題を認識し、地域の実情に即したビジネス活動を理解して、地域社会の発展に寄与できる。 ② 地域活動に積極的に参加し、地域の一員として地域社会の活性化に貢献することができる。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">カリキュラム・ポリシー</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 変化の激しい社会の中で、どのような状況や環境に置かれても生き抜いていくための基礎力を涵養するべく、実社会と結びつき、かつ学科の分野にとらわれない共通の内容を基本とした、教養教育分野を配置する。 加えてビジネスキャリア学の専門教育に繋がる教養教育科目も配置する。 2. 専門教育分野では、基礎科目、基幹科目、展開科目で編成し、ビジネス社会に必要とされる基本的な知識と技能の修得を目指す教育を行う。基礎科目ではビジネス社会の基本的素養であるビジネスマナー、人間関係の構築やホスピタリティマインドを涵養する科目を配置する。基幹科目では経営学を中心とした現代ビジネスの理解に不可欠な科目群を配置する。展開科目では基礎科目及び基幹科目を受けて、各種推奨履修モデルを中心として、発展的にビジネス分野について学修を深める科目群を配置する。履修モデルにかかわらず、各モデルに属する科目群は選択科目として配置する。 3. 演習分野では、1年生の前期から2年生の後期まで、毎学期、教員が学生を身近で指導できる少人数のゼミ科目を配置するほか、キャリア形成支援に関わる科目を配置する。 4. 地域社会に貢献できるビジネス実務能力を身につけられる科目を配置する。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">アドミッション・ポリシー</p>	<p>ビジネスキャリア学科では、職業人として地域社会の活性化に貢献する人材、自己向上の意欲を持ち続け、広い意味でのキャリア形成に生涯努める人材の育成を図ることを目標としています。</p> <p>この目標を達成するために、以下のような能力と資質を持った学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯を通して学修を積み視野を拓げる意識を持ち、常に向上心・探究心を持って自分の人生を創造できる。 2. 大学生活においてより一層コミュニケーション能力の向上に努め、自分が関係する社会と良好な関係を築く意欲がある。 3. 社会で必要とされる知識・能力・実務スキルを身につける意欲を持ち、将来これを活用して課題を発見し解決を図ることができる。 4. 入学後に学びを継続するための基礎学力を有している。

■ リハビリテーション学科 理学療法学専攻

<p>教育研究上の理念及び養成人材像</p>	<p>理学療法学専攻では、障害や高齢に伴う運動機能が低下した対象者に対して、自立した日常生活が送れるように、運動機能の回復・維持を図り、日常生活活動の改善を図ることのできる理学療法士を目指し、基本的な理学療法を学び、急性期から回復期などの医療分野から生活期における在宅生活支援、介護予防・疾病予防のための健康増進支援、スポーツ競技支援などの幅広い知識・技能を涵養することを教育研究上の理念とする。教育研究上の理念を踏まえ、学生が本来持っている個人の資質を最大限に成長させ、リハビリテーション医療専門職としての倫理観を養い、理学療法の専門知識・技術を身につけ、地域社会に貢献できる人材を養成する。さらに、生涯にわたって学び続け、継続的な自己研鑽ができる人材を養成する。</p>
<p>教育目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間愛の精神に基づき、さまざまな文化的・社会的背景をもつ人々を理解・共感し、誠実な心で接することのできる態度を養う。 2. 生命の尊厳を理解し、対象者の人権の擁護者としての倫理観を身につける。 3. 社会や地域特性に応じたリハビリテーションの機能と役割、保健・医療・福祉チームの中で果たす役割をとにも理解し、責任を担う姿勢を養う。 4. リハビリテーション医療専門職として自己評価ができ、生涯にわたり自己の人間形成をはかりながら自主的・自立的な行動ができ、理学療法士として成長し続けられるための能力を養う。
<p>ディプロマ・ポリシー</p>	<p>理学療法学専攻に3年以上在学し、【基礎力】【実践力】【人間関係力】【生涯学習力】【地域理解力】の5つの力で表わされた本専攻が定める学修成果を身につけ、所定の卒業要件単位数を満たした者に、「短期大学士（理学療法学）」の学位を授与する。</p>

学修成果
(到達目標)

1. 【基礎力】 一般教養及び理学療法分野の基礎的能力を身につける
 - ① 医療専門職としての幅広い教養を学び人間性を涵養できる。
 - ② 理学療法の専門的な知識・技術を修得し、医療専門職としての高い倫理観を身につける。
2. 【実践力】 理学療法を実践し応用できる力を身につける
 - ① 心身機能および生活上の問題に対して、多面的かつ根拠に基づいた論理的思考のもとに問題解決をはかることができる。
 - ② 臨床実習を通して、理学療法を実践し、臨床応用能力を身につける。
3. 【人間関係力】 理学療法士として必要なコミュニケーション能力を身につける
 - ① 全ての人を全人的に捉え、理解し、コミュニケーションを図ることができる。
 - ② 対象者の考えや立場を尊重し、良好な人間関係を築くことができる。
4. 【生涯学習力】 生涯にわたって学び、成長できる力を身につける
 - ① 理学療法士として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に向け取り組むことができる。
 - ② 自己の理学療法専門領域を学術的に探求できる力を身につける。
5. 【地域理解力】 地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力を身につける
 - ① 保健、医療、福祉の現場において、理学療法士として専門性と責任を自覚して地域社会に貢献できる。
 - ② 医療の進歩や超高齢社会を踏まえ、時代や地域のニーズに応えることができる。

カリキュラム・ポリシー	<p>理学療法専門教育における学修成果を確保する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 幅広い教養を修得し豊かな人間性やコミュニケーション能力を養う教養教育分野を配置する。 入学早期からリハビリテーション医療専門職として必要な知識を高めるため、解剖学、生理学、運動学および理学療法概論などの基礎理学療法学や基礎医学科目、臨床医学科目を配置する。 理学療法専門教育科目として、主に、理学療法評価学、骨関節障害理学療法学、神経障害理学療法学、内部障害理学療法学などの臨床的科目についてその知識と実践的な治療技術を学修するための科目を配置する。 理学療法専門教育科目の学修成果を確認および実践するために、病院などの臨床実習施設において、臨床実習科目を履修する。また、臨床実習をとおして、理学療法士としての高い倫理観を持ち、その役割を理解する。 地域社会に貢献するために、地域理学療法学や保健医療福祉連携論などの科目を配置し、地域社会での理学療法士の使命と役割について理解する。
アドミッション・ポリシー	<p>理学療法学専攻では、リハビリテーション医療専門職としての倫理観を養い、人間愛を育み、地域社会が求める人間性豊かで専門性の高い理学療法士を養成することを目標としています。</p> <p>この目標を達成するために、以下のような能力と資質を持った学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 高等学校の基礎的学力および学習活動が身についている。 理学療法士になりたいという強い意志を持ち続けられる。 主体性を持って、何事にも粘り強く積極的に取り組むことができる。 他者の考えや立場を理解し、人との関りや生命の尊厳を大切にすることができる。

■ リハビリテーション学科 作業療法学専攻

<p>教育研究上の理念及び養成人材像</p>	<p>作業療法学専攻では、身体、精神、発達、高齢期の障害や環境上の社会的障壁により、日常生活活動、家事、仕事、趣味、遊び、対人交流などの生活行為に問題を抱えた対象者が、その人らしい生活が可能になるように支援することができる作業療法士を目指し、基本的な作業療法を学び、保健・医療・福祉の分野での社会的ニーズに対応できる幅広い知識・技能を涵養することを教育研究上の理念とする。教育研究上の理念を踏まえ、学生が本来持っている個人の資質を最大限に成長させ、リハビリテーション医療専門職としての倫理観を養い、作業療法の専門知識・技術を身につけ、地域社会に貢献できる人材を養成する。さらに、生涯にわたって学び続け、継続的な自己研鑽ができる人材を養成する。</p>
<p>教育目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間愛の精神に基づき、さまざまな文化的・社会的背景をもつ人々を理解・共感し、誠実な心で接することのできる態度を養う。 2. 生命の尊厳を理解し、対象者の人権の擁護者としての倫理観を身につける。 3. 社会や地域特性に応じたリハビリテーションの機能と役割、保健・医療・福祉チームの中で果たす役割をともに理解し、責任を担う姿勢を養う。 4. リハビリテーション医療専門職として自己評価ができ、生涯にわたり自己の人間形成をはかりながら自主的・自立的な行動ができ、作業療法士として成長し続けられるための能力を養う。
<p>ディプロマ・ポリシー</p>	<p>作業療法学専攻に3年以上在学し、【基礎力】【実践力】【人間関係力】【生涯学習力】【地域理解力】の5つの力で表わされた本専攻が定める学修成果を身につけ、所定の卒業要件単位数を満たした者に、「短期大学士（作業療法学）」の学位を授与する。</p>

1. 【基礎力】 一般教養及び作業療法分野の基礎的能力を身につける
 - ① 医療専門職としての幅広い教養を学び人間性を涵養できる。
 - ② 作業療法士としての専門的な知識・技術を修得し、高い倫理観を持って人の健康・幸福を支援できる。
2. 【実践力】 作業療法を通して、対象者一人ひとりの課題に対応できる力を身につける
 - ① 生活行為上の問題に対して、対象者のニーズや環境を踏まえつつ、根拠に基づいた論理的思考のもとに問題解決をはかることができる。
 - ② 臨床実習を通して、作業療法を実践し、臨床応用能力を身につける。
3. 【人間関係力】 作業療法士として必要なコミュニケーション能力を身につける
 - ① 全ての人を全人的に捉え、理解し、コミュニケーションを図ることができる。
 - ② 対象者の考えや立場を尊重し、良好な人間関係を築くことができる。
4. 【生涯学習力】 生涯にわたって学び、成長できる力を身につける
 - ① 作業療法士として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に向け取り組むことができる。
 - ② 自己の作業療法専門領域を学術的に探求できる力を身につける。
5. 【地域理解力】 地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力を身につける
 - ① 保健、医療、福祉の現場において、作業療法士として専門性と責任を自覚して地域社会に貢献できる。
 - ② 医療の進歩や超高齢社会を踏まえ、時代や地域のニーズに応えることができる。

<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>作業療法専門教育における学修成果を確保する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 幅広い教養を修得し豊かな人間性やコミュニケーション能力を養う教養教育分野を配置する。 入学早期からリハビリテーション医療専門職として必要な知識を高めるため、解剖学、生理学、運動学および作業療法概論などの基礎作業療法学や基礎医学科目、臨床医学科目を配置する。 作業療法を行う上で必要とされる実践能力の基礎となる専門的知識や理論、身体障害領域、精神障害領域、発達障害領域、高齢期障害領域にかかわる技術を修得し、様々な事象に対して検証を加えることができる能力を育成するための科目を配置する。 作業療法専門教育科目の学修成果を確認および実践するために、病院・施設・地域などで臨床実習科目を履修する。また、臨床実習をとおして、作業療法士としての高い倫理観を持ち、その役割を理解する。 地域社会に貢献するために、地域作業療法学や保健医療福祉連携論などの科目を配置し、地域社会での作業療法士の使命と役割について理解する。
<p>アドミッション・ポリシー</p>	<p>作業療法学専攻では、リハビリテーション医療専門職としての倫理観を養い、人間愛を育み、地域社会が求める人間性豊かで専門性の高い作業療法士を養成することを目標としています。</p> <p>この目標を達成するために、以下のような能力と資質を持った学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 高等学校の基礎的学力および学習活動が身についている。 他者と良好な人間関係を築きながら切磋琢磨することができる。 主体性を持って、何事にも粘り強く積極的に取り組もうとする意欲がある。 他者の考えや立場を理解し、人との関りや生命の尊厳を大切にすることができる。

■ こども学科

<p>教育研究上の理念及び養成人材像</p>	<p>こども学科においては、次代を生きる子どもの心身の発達及び成長に資する人材を育成するために、人間形成を図っていくための基礎を教授し、教育及び保育に関する専門的知識・技能を身につけさせ、教育・保育の現場に柔軟に対応し実践できる力を涵養させることを教育研究上の理念とする。</p> <p>乳幼児の教育の構造を幼稚園・こども園・保育所、家庭、地域社会の三者連携の中で捉え、乳幼児が豊かな体験をしていくことが可能となるよう適切な環境を構成し、乳幼児の発達を助長し、健やかな成長を促すことができるような保育者の育成を志向する。</p>
<p>教育目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの「生きる力」を育む保育者として必要とされる基礎的知識及び技能を着実に身につける。 2. 子どもを取り巻く課題を解決するため、専門的知識や技能を体系的に理解し、それらを活用して、思考し、判断し、表現する力及び学級を経営する力を身につける。 3. 子ども一人一人の育ちに寄り添った教育・保育を行い、また保護者、職場の同僚、及び地域社会に適切に対応することができるように、豊かな人間性や対人関係能力、コミュニケーション能力を基盤とした総合的な人間力を養う。 4. 生涯にわたり学び続け、主体的に考える力を養う。
<p>ディプロマ・ポリシー</p>	<p>こども学科に2年以上在学し、【基礎力】【実践力】【人間関係力】【生涯学習力】【地域理解力】の5つの力で表わされた本学科が定める学修成果を身につけ、所定の卒業要件単位数を満たした者に、「短期大学士（こども学）」の学位を授与する。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学修成果 (到達目標)</p>	<p>学修成果とは学生が獲得すべき知識・スキル・態度などであり、本学科では以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 【基礎力】 一般教養並びに各専門分野の基礎的能力 <ol style="list-style-type: none"> ① 子どもの豊かな感性と表現力を育むための基礎的知識や技術を身につけている。 ② 保育者としての適切な考え方や態度を身につけている。 2. 【実践力】 各分野の実際の場面に対応できる力 <ol style="list-style-type: none"> ① 子どもの発達段階を理解し、保育に活かすことができる。 ② 子ども一人ひとりの健全な発達を保障する保育環境づくりを行うことができる。 3. 【人間関係力】 専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力 <ol style="list-style-type: none"> ① 保護者とともに子育てを行う姿勢を基本に、適切な子育て支援体制を築くことができる。 ② 適切に状況判断を行い、必要に応じて他者や他機関と連携できる。 4. 【生涯学習力】 生涯にわたって学び、成長できる力 <ol style="list-style-type: none"> ① つねに、子どもをめぐる社会的歴史的課題や時事問題に関心をもつ。 ② 保育に関する自らの課題について、真摯に反省し、自己の向上に努める。 5. 【地域理解力】 地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力 <ol style="list-style-type: none"> ① 地域の状況を理解し、子育てを通して地域社会に貢献できる。 ② 地域の特徴（自然や文化）を活かした子育て環境を構築できる。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">カリキュラム・ポリシー</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 変化の激しい社会の中で、どのような状況や環境に置かれても生き抜いていくための基礎力を涵養するべく、実社会と結びつき、かつ学科の分野にとらわれない共通の内容を基本とした、教養教育分野を配置する。 加えてこども学の専門教育に繋がる教養教育科目も配置する。 2. 考える力、感じる力、想像する力、判断する力、表現する力を高める科目を設置する。 3. 教育・保育の全体的な構造の把握と、こども理解の深化を促し、実践的指導力の育成を目指した教育を展開する。 4. 身につけた知識と技能を活用し、課題の解決に結びつけられる実践力の修得を目指し、実習関連科目を体系的に配置する。 5. 幼児教育を学ぶにあたって必要とされる基礎力の養成と、実践的な能力及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目的として、個々の学生の資質能力を見極め、その力を伸ばすための基礎演習を設置する。

こども学科では、教育及び保育に関する専門知識・技能や、教育・保育の現場に柔軟に対応し実践できる力を身につけ、次代を生きる子どもの心身の発達及び成長に資する人材を育成することを目標としています。

この目標を達成するために、以下のような能力と資質を持った学生を求めます。

1. 自分の考えを自分の言葉で伝えることができる。
2. 子どもに関する社会問題を自分の問題として考えることができる。
3. 基礎的スキルを用いて、自己表現することができる。
4. 入学後に学びを継続するための基礎学力を有している。

■ 歯科衛生学科

<p>教育研究上の理念及び養成人材像</p>	<p>歯科衛生学科では、学生が本来持っている個人の資質を心理面・身体面・社会面のバランスを取りながら成長させ、社会人並びに医療従事者としての高い倫理観を養い、さらに口腔衛生の専門職として保健・医療・福祉に通じる知識・技術・判断力を高め、日々進歩する医療を生涯にわたって学び続けることができる人材を育成することを教育研究上の理念とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・医療・福祉に精通した医療従事者として、歯科衛生の側面から様々なライフステージを理解し、人間と健康についての知識を身につけ、人々の健康増進の取り組みに貢献できる人材の養成を行う。 2. 日常生活から周術期、リハビリテーションに至るまでの口腔機能向上に努めることができ、かつ口腔衛生の専門職としての知識と技術に加え、高い倫理観と豊かな人間性を兼ね備えた歯科衛生士の育成を目指す。 3. 卒業後は病院歯科や歯科診療所等の医療機関にとどまらず、保健・福祉を含めた幅広い領域での活躍が期待できる。
<p>教育目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々なライフステージを理解するための幅広い見識と、一人ひとりに寄り添った対応ができる豊かな人間性を養う。 2. 歯科医療の高度化と社会環境の変化に対応し、口腔衛生の専門職に必要なとされる専門的な知識・技術を身につけ、科学的な判断を行うことができる能力を養う。 3. 保健・医療・福祉チームの中で果たすべき役割を正しく理解し協働できる、コミュニケーション能力を養う。 4. 社会人として、そして医療従事者として、責任感をもって、主体的に考え行動することができる能力を養う。
<p>ディプロマ・ポリシー</p>	<p>歯科衛生学科に3年以上在学し、【基礎力】【実践力】【人間関係力】【生涯学習力】【地域理解力】の5つの力で表わされた本学科が定める学修成果を身に付け、所定の卒業要件単位数を満たした者に、「短期大学士（歯科衛生学）」の学位を授与する。</p>

学修成果とは学生が獲得すべき知識・スキル・態度などであり、本学科では以下の通りとする。

1. 【基礎力】 一般教養並びに各専門分野の基礎的能力

- ① 全身と口腔の健康を理解し、歯科衛生士として必要な基本的な知識を身につける。
- ② 口腔疾患の原因、病態、予防方法を理解し、歯科衛生士としての専門性を理解し応用できる能力を身につける。
- ③ 自らの健康管理ができ、社会人として責任を果たすことができる。

2. 【実践力】 各分野の実際の場面に対応できる力

- ① 疾病予防のために必要な情報を収集し、問題解決のための基本的な施術や適切な口腔衛生指導ができる。
- ② 安全で効果的な歯科医療を提供するため、基本的な技術を身につけ実践できる。
- ③ 社会人として、また医療従事者として倫理観をもって行動できる。

3. 【人間関係力】 専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力

- ① 社会人としての責任感を自覚し周囲と良好な人間関係を築くことができる。
- ② 保健・医療・福祉チームの中で果たす役割を理解し、他者と連携しながら歯科衛生士の役割・責任を担うことができる。
- ③ 他者との関わりの中で、自らの課題を見つける客観性と、改善・解決できる柔軟性を身につける。

4. 【生涯学習力】 生涯にわたって学び、成長できる力

- ① 学修内容に興味や関心をもち、主体的、意欲的に取り組むことができる。
- ② 専門職者として歯科医療における問題点をみつけ、自己学修によって解決できる。
- ③ 専門職者として常に謙虚で自己の成長に努めることができる。

5. 【地域理解力】 地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力

- ① 地域社会に貢献する歯科衛生士の使命感を持って積極的に行動できる。
- ② 地域の文化、人々の生活に興味、関心をもち、地域住民の視点にたちコミュニケーションをとることができる。

カリキュラム・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会が求めるコミュニケーション能力と論理的思考力の基礎を養い、かつ、人として豊かに生きていくための土台を成すことを目指した科目群として教養教育分野を配置する。 2. 歯科衛生学の専門領域科目に係る科目群として専門教育分野を配置する。専門教育分野には、実践能力の基礎となる専門的知識や理論及び歯科衛生を取り巻く保健・医療・福祉について講義を中心に学ぶ専門支持科目群と、講義・演習・実習の体系的な配置により専門支持科目で学んだ理論を技術と統合していく専門展開科目群を置く。 3. 専門展開科目群の中には、理論と技術を実践につなげることを目的として臨地実習科目を配置し、3年間を通して段階的に展開する。
アドミッション・ポリシー	<p>歯科衛生学科では、社会人並びに医療従事者としての高い倫理観を養い、さらに口腔衛生の専門職として保健・医療・福祉に通じる知識・技術・判断力を高め、日々進歩する医療を生涯にわたり学び続けることのできる人材の養成を目標としています。</p> <p>この目標を達成するために、以下のような能力と資質を持った学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療に携わる職を目指す者として、心身の健康を大切にできる。 2. 他者の痛みを理解し、良好な人間関係を築くことができる。 3. 生涯にわたり学び、成長し続ける意志を持っている。 4. 入学後に学びを継続するための基礎学力を有している。

■ 栄養学科

<p>教育研究上の理念及び養成人材像</p>	<p>栄養学科では、栄養学の基礎的知識及び給食現場で必要とされる基礎的技術を確実に身につけ、卒業後は他の栄養に携わる専門職及び医療・福祉等の専門職者と連携することができ、対象者の健康を食の面から支えるための労を惜しまない人材を育成する。加えて、様々なライフステージにおける栄養と健康の関わりを理解し、変化する食環境を取り巻く課題を発見し解決するために主体的に考え行動できる力を身につけさせることを教育研究上の理念とする。</p> <p>教育研究上の理念を踏まえ、以下の人材を養成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養に携わる者としての専門的知識・技術、責任・自覚を持った人材 2. 主体的に考え行動し、他者を理解し協働できる人材 3. 生涯にわたって健康で学び続けることのできる人材
<p>教育目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2年間の教育課程において、栄養に携わる者に求められる専門的知識・技術を確実に身につける。その中で、栄養管理および衛生管理を行う者としての責任と自覚を養う。 2. 健康や生命を預かる栄養現場において、主体的に考え行動できる力を身につける。加えて、様々なライフステージの対象者を理解し、現場において他の専門職者等と協働する力を養う。 3. 生涯にわたり専門知識・技術を学び続ける力を養う。
<p>ディプロマ・ポリシー</p>	<p>栄養学科に2年以上在学し、【基礎力】【実践力】【人間関係力】【生涯学習力】【地域理解力】の5つの力で表わされた本学科が定める学修成果を身に付け、所定の卒業要件単位数を満たした者に、「短期大学士（栄養学）」の学位を授与する。</p>

学修成果とは学生が獲得すべき知識・スキル・態度などであり、本学科では以下の通りとする。

1. 【基礎力】 一般教養並びに各専門分野の基礎的能力
 - ① 短期大学生としての一般的な教養と知識を身につける。
 - ② 栄養士の基盤となる基礎知識を身につける。
2. 【実践力】 各分野の実際の場面に対応できる力
 - ① 栄養士は食事提供を通じて対象者の健康や命をあずかっていることを自覚している。
 - ② 基本的な調理技術を修得し、給食施設の利用者の特性に応じた献立作成スキルを身につける。
 - ③ 事故を起こさないよう責任を持って衛生管理および栄養管理を行うことができる。
3. 【人間関係力】 専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力
 - ① 誰とでも挨拶ができ、広い心を持って他者に接することができる。
 - ② 社会や職場で必要なコミュニケーション能力を身につける。
 - ③ 栄養士業務における他職種との協働や連携の必要性がわかり、課題や問題について他者と協働し解決することができる。
4. 【生涯学習力】 生涯にわたって学び、成長できる力
 - ① 栄養や健康に関する動向や新しい情報に関心をよせ、情報収集を行うことができる。
 - ② 自己の課題を見つけ、その課題解決に向けて努力することができる。
5. 【地域理解力】 地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力
 - ① 地域の食文化や健康課題を理解し、地域の特色に応じた食事づくりや健康づくりに携わることができる。
 - ② 栄養士としての職業的使命感を持って、地域貢献のために積極的に行動することができる。

カリキュラム・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人として必要な豊かな人間性やコミュニケーション能力を養う教養教育分野を配置し、幅広い教養教育を展開する。加えて栄養学の専門教育に繋がる教養教育科目も配置する。 2. 栄養学科で学ぶ知識・技術の修得を目指し、自ら調べ、考え、まとめ、発表する能力を育成するため、テーマを設けてグループ学修を行う栄養基礎演習及び栄養総合演習を配置する。 3. 栄養士となるため栄養学の幅広い専門的知識と理論を修得するための専門科目として、専門支持科目、専門基礎科目、専門展開科目を配置し、順を追って体系的に学ぶ。 4. 栄養学の理論と知識を基礎に、実践能力・技術を身につけるため実験・実習科目を充実させる。 5. 栄養士に必要な給食業務を実際に経験する科目として校外実習を配置する。
アドミッション・ポリシー	<p>栄養学科では、栄養に携わる者としての専門的知識・技術、責任・自覚を持ち、主体的に考え行動し、他者を理解し協働することができ、生涯にわたり健康で学び続けることができる人材を養成することを目標としています。</p> <p>この目標を達成するために、以下のような能力と資質を持った学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養と健康のかかわりに関心を持ち、心身の健康を大切にできる。 2. 他者の立場に立って考え、良好な人間関係を築くことができる。 3. 生涯にわたり学び、成長し続ける意志を持っている。 4. 入学後に学びを継続するための基礎学力を有している。

■ 観光ビジネス学科

<p>教育研究上の理念及び養成人材像</p>	<p>観光ビジネス分野の人材として地域社会の活性化に貢献し、生涯にわたって当該分野のキャリア形成に努める人材を育成することを教育研究上の理念とする。卒業後は、旅行会社、ホテル、鉄道、空港等の観光ビジネス分野に就業し、活躍できる人材を養成する。</p> <p>教育研究上の理念を踏まえ、以下の人材を養成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観光ビジネス分野に携わる者に求められる基礎的素養を身につけた人材 2. 経営学を中心とする基礎理論、観光ビジネス分野に関する専門的知識及び能力を身につけた人材 3. 地域社会に貢献する意欲を持ち、生涯にわたって学び続けることのできる人材
<p>教育目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 観光ビジネス分野において求められる、豊かな教養、コミュニケーション能力、ホスピタリティマインドを身につける。 2. 観光ビジネス分野の基盤となる経営学の基礎理論を修得し、ホテル、旅行、交通を中心とする観光業界に必要な専門的知識及び実務能力を身につける。 3. 東北地方の歴史・文化・社会・経済、観光資源についての知識や理解を深め、地域社会に貢献し、生涯にわたって学び続ける姿勢を身につける。
<p>ディプロマ・ポリシー</p>	<p>観光ビジネス学科に2年以上在学し、【基礎力】【実践力】【人間関係力】【生涯学習力】【地域理解力】の5つの力で表された本学科が定める学修成果を身に付け、所定の卒業要件単位数を満たした者に、「短期大学士（観光ビジネス学）」の学位を授与する。</p>

学修成果とは学生が獲得すべき知識・スキル・態度などであり、本学科では以下の通りとする。

1. 【基礎力】 一般教養並びに各専門分野の基礎的能力

広い視野を持ち、深い知識と技能を修得し、観光ビジネスの現場で活かすことができる。

- ① 総合的な判断力の基礎を養うことができる。
- ② 多角的な視野から物事を思考し、本質を見極め、問題解決に取り組むことができる。

2. 【実践力】 各分野の実際の場面に対応できる力

複雑化する現代社会において、豊かな教養を身につけ、職業人として多角的に物事を見つめることができる。

- ① 基本的なビジネスマナーを身につけ観光ビジネスの現場で実践することができる。
- ② 収集した情報を状況に応じて適切に判断し、活用することができる。

3. 【人間関係力】 専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力

豊かなコミュニケーション能力を身につけ、職業人として自己の能力を発揮することができる。

- ① 積極的かつ意図的にコミュニケーションを作り出すことができる。
- ② 他者の考えや立場を理解し、自分の意見を述べることができる。

4. 【生涯学習力】 生涯にわたって学び、成長できる力

継続してキャリアを積むことにより、さらなる業務遂行能力をはじめとする人間的成長ができる。

- ① 生涯にわたって、課題を発見し、解決する力を身につける。
- ② 時代の変化に応じ、生涯を通じて自分のキャリアを形成していくことができる。

5. 【地域理解力】 地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力

職業人として地域社会の活性化に貢献することができる。

- ① 職業や勤労に対する理解を深め、地域で意欲的に働くことができる。
- ② 地域での活動に積極的に参加し、役割に即した活動の成果をあげることができる。
- ③ 東北地方の歴史、文化、社会、経済、観光資源について理解し、地域社会に貢献することができる。

カリキュラム・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 変化の激しい社会の中で、どのような状況や環境に置かれても生き抜いていくための適応力を涵養するため、実社会と結びつき、かつ学科の専門分野にとらわれない共通の内容を基本とする教養教育分野を配置する。さらに教養教育分野には観光ビジネス学の専門教育に繋がる教養教育科目も配置する。 2. 基礎科目、基幹科目、展開科目からなる専門教育分野を編成する。基礎科目では観光ビジネス学を学ぶ際に基礎をなす科目群を必修科目として配置する。基幹科目ではビジネス実務能力、ホスピタリティマインドを涵養する科目群を必修科目として配置する。展開科目では基礎科目及び基幹科目を受けて、各種推奨履修モデルを中心として、発展的に観光ビジネス分野について学修を深める科目群を置く。 3. 演習分野では、1年生の前期から2年生の後期まで、毎学期、教員が学生を身近で指導できる少人数のゼミ科目を配置するほか、実践的なキャリア形成支援に関わる科目を配置する。
アドミッション・ポリシー	<p>観光ビジネス学科では、観光ビジネス分野に携わる者に求められる基礎的素養・専門的知識及び能力を身につけ、地域社会に貢献する意欲を持ち、生涯にわたり学び続けることのできる人材を育成することを目標としています。</p> <p>この目標を達成するために、以下のような能力と資質を持った学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観光を通して社会に貢献するための知識・能力を身につけることを希望している。 2. 他者と協働する姿勢を持ち、周囲と良好なコミュニケーションを図ることができる。 3. 広く社会的事象に関心を持ち、それらの関連性を自分の言葉でわかりやすく表現することができる。 4. 高等学校等卒業までに学習した主要教科・科目、とりわけ社会・文化・経済などに関する科目について基本的な知識を有し、各科目間の関連性を理解している。

■ 現代英語学科

<p>教育研究上の理念及び養成人材像</p>	<p>現代英語学科では、国際共通語として現代世界で使用されている英語について、「話す」「聞く」「読む」「書く」という4技能の習得を通じ、実用的英語力を身につけた人材を育成する。併せて、バランスのとれた教養、他者の考えを理解し自分の考えを表現するコミュニケーション能力、ビジネス実務能力などの社会人として求められる基礎的素養を涵養することを教育上の目的とする。</p>
<p>教育目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル社会で通用する英語力を身につけ、積極的に異文化間交流ができるコミュニケーション能力を養う。 2. 様々な価値観に対応できる柔軟性を持ち、良好な人間関係を築く力を養う。 3. 社会の変化に応じ、生涯にわたって課題を見つけ、自己成長につなげる力を養う。
<p>ディプロマ・ポリシー</p>	<p>現代英語学科に2年以上在学し、【基礎力】【実践力】【人間関係力】【生涯学習力】【地域理解力】の5つの力で表された本学科が定める学修成果を身につけ、所定の卒業要件単位数を満たした者に、「短期大学士（英語）」の学位を授与する。</p>

1. 【基礎力】 一般教養並びに各専門分野の基礎的能力
 - ① 人間・社会・文化などについての教養を身につけている。
 - ② 身近な話題に関して対応することができる英語 4 技能を身につけている。
(CEFR-B1 レベル程度)
2. 【実践力】 各分野の実際の場面に対応できる力
 - ① 自立した英語使用者として、臆せずコミュニケーションを図ることができる。
 - ② 他者の考えを理解し、多角的に物事を捉えながら、自分の考えを構築し表現することができる。
3. 【人間関係力】 専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力
 - ① 社会や職場で必要なコミュニケーション能力を身につけ、他者と良好な人間関係を築くことができる。
 - ② 基本的なプロトコルやビジネス実務能力を身につけ、実践することができる。
4. 【生涯学習力】 生涯にわたって学び、成長できる力
 - ① 生涯にわたって課題を発見し、解決する力を身につけている。
 - ② 変化に富むグローバル社会において、生涯を通じて自分を成長させることができる。
5. 【地域理解力】 地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力
 - ① 自国の歴史・文化・社会・経済について理解し、異文化間コミュニケーションに役立てることができる。
 - ② 様々な地域の文化・社会を知り、それぞれの価値観に対応して調和と共生を積極的に図ることができる。

<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 変化の激しい社会の中で、どのような状況や環境に置かれても生き抜いていくための基礎力を涵養すべく、実社会と結びつき、かつ学科の分野にとらわれない全学共通の内容を基本とした、『教養教育分野』を配置する。加えて、現代英語学科の専門教育につながる教養教育科目も配置する。 2. 『専門教育分野』は、『専門基礎科目』、『専門展開科目』及び『関連科目』にて構成する。『専門基礎科目』では、「話す」「聞く」「読む」「書く」の英語4技能を中心に、基礎となる科目を配置する。『専門展開科目』は、『専門基礎科目』で学んだことを基盤とし、4技能を統合した実用的英語運用能力を身につける科目を配置する。さらに、ビジネス実務能力を養成する科目を『関連科目』として配置する。 3. 『演習分野』は、1年次前期から2年次後期まで、教員が学生に身近で指導し、個々の学生の資質能力を高める、少人数のゼミ科目のほか、キャリア形成支援に関わる科目を配置する。加えて、リスニング、リーディング、文法、語彙に関するスキルを強化し、総合的に英語力を向上させる科目を置く。
<p>アドミッション・ポリシー</p>	<p>現代英語学科では、国際共通語として現代世界で使用されている英語について、「話す」「聞く」「読む」「書く」という4技能の習得を通じ、実用的英語力を身につけた人材を育成することを目標としています。</p> <p>この目標を達成するために、以下のような能力と資質を持った学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入学後に学びを継続するための基礎学力を有している。 2. 本学での学びを通じて、英語力を向上する意欲がある。 3. 他者と良好なコミュニケーションを図ることができる。 4. 学修習慣が身につけており、生涯を通じて学び続ける意志を持っている。

■ 言語聴覚学科

<p>教育研究上の理念及び養成人材像</p>	<p>人間の尊厳についての理解を深化させ、豊かな人間性を涵養しながら、生涯にわたって学び続ける力を育み、「人間」を学際的な視点から理解するために必要な知識と、治療・援助・指導を行うための実践的な技術を身につけた言語聴覚士を養成することに教育研究上の理念を置く。</p> <p>学生が本来持っている個人の資質を成長させ、職業人としての倫理観を養い、人間愛を育て、幅広い知識と高度な技術を臨床現場で活用し得る能力を備えた言語聴覚士を養成する。また、医療を取り巻く著しい変化の中で、チーム医療の一員として高いコミュニケーション能力を発揮し、地域社会に貢献し得る人材を養成する。</p>
<p>教育目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間愛の精神に基づき、人間の尊厳についての理解を深め、職業人としての倫理観を養い、豊かな人間性を育成する。 2. リハビリテーション専門職者として、時代や地域社会の要請に応え得る幅広い知識と高度な技術を養成し、チーム医療の一員として自身の役割と責任を果たすことのできる能力を養う。 3. 様々な価値観や背景を持つ他者を理解・尊重し、信頼と共生の基盤となる良好な人間関係を構築することのできるコミュニケーション能力を養う。 4. 自ら目標や課題を設定し、自主的・自立的にその達成や解決に努めることができ、生涯にわたり成長し続けるための能力を養う。
<p>ディプロマ・ポリシー</p>	<p>言語聴覚学科に3年以上在学し、【基礎力】【実践力】【人間関係力】【生涯学習力】【地域理解力】の5つの力で表された本学科が定める学修成果を身につけ、所定の卒業要件単位数を満たした者に、「短期大学士（言語聴覚学）」の学位を授与する。</p>

1. 【基礎力】 一般教養並びに各専門分野の基礎的能力
人間の尊厳について理解し、専門職としての基盤となる知識を身につけている。
 - ① 歴史や文化、現代社会についての教養を身につけ、人間としての在り方や、多様な生き方について理解できる。
 - ② 言語聴覚士としての基礎的な知識と、専門性を理解し応用できる能力を身につけている。
2. 【実践力】 各分野の実際の場面に対応できる力
臨床現場において治療・援助・指導を行うための技術を身につけ、実践することができる。
 - ① 臨床現場で活用し得る幅広い知識と高度な技術を身につけている。
 - ② 言語聴覚士として、他者の心身の痛みや苦悩への共感を持ち、倫理観に基づいて行動することができる。
3. 【人間関係力】 専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力
社会人また言語聴覚士として高いコミュニケーション能力を身につけ、他者と協働することができる。
 - ① 高いコミュニケーション能力と豊かな人間性を身につけ、他者の考えや立場を理解することができる。
 - ② 多職種連携の重要性を理解し、チーム医療の一員として他者と連携、協働することができる。
4. 【生涯学習力】 生涯にわたって学び、成長できる力
多くの学問分野に接して幅広い見識と専門的知識と技術の向上を図ることができる。
 - ① リハビリテーション専門職者として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができる。
 - ② 自己の専門領域を生涯にわたって、学術的に探求することができる。
5. 【地域理解力】 地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力
地域社会における言語聴覚士の使命と役割を理解し、専門性を活かして地域に貢献することができる。
 - ① 地域に貢献する言語聴覚士としての専門性と責任を自覚し、積極的に行動することができる。
 - ② 進歩する医療と高齢社会の中で、時代や地域のニーズに応えることができる。

カリキュラム・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション能力や豊かな人間性を養うべく、実社会と結びつき、かつ学科の分野にとらわれない共通の内容を基本とした科目群として、教養教育分野を配置する。加えて言語聴覚学の専門教育に繋がる教養教育科目を配置する。 2. 言語聴覚学の幅広い専門的知識と技術を修得するための専門領域科目に係る科目群として、専門教育分野を配置する。専門教育分野は、専門支持科目、専門展開科目、専門独自科目にて構成する。 3. 専門展開科目の中には臨床実習科目を配置し、3年間を通して段階的に展開する。 4. 保健・医療・福祉分野の専門職チームの一員としての実践能力を養い、地域社会におけるリハビリテーションの使命と役割について理解させる科目を配置する。
アドミッション・ポリシー	<p>言語聴覚学科では、職業人としての倫理観を養い、人間愛を育み、幅広い知識と高度な技術を臨床現場で活用し得る能力を備えた言語聴覚士を養成することを目標としています。</p> <p>この目標を達成するために、以下のような能力と資質を持った学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入学後に学びを継続するための基礎学力を有している。 2. 他者と良好な人間関係を築くことの重要性を理解し、コミュニケーション能力の向上に努めることができる。 3. 人間の尊厳を理解し、自身の健康を大切にできる。 4. 他者の心身の痛みや苦悩に寄り添い、共感することができる。